

## シグマ研究委員会幹事会議事録

日 時： 昭和43年6月13日(木) 13:30~17:00

場 所： 東海研 VdG 29号室

出席者： 百田，中嶋，飯島，岩城，桂木，五十嵐(田中)

### 議 事

#### 1 43年度 実行計画

核データ・グループの今年度計画で未確定の点があり，懸案となっていたが，二，三のグループ員との連絡不足のため最終案は出なかった。核データ・グループ幹事会で早急に作成するとのことである。(五十嵐委員)

核データ・グループの今年度以後の活動との関連において，6月1日から発足した核データ研究室個有の計算費をもつことの可否についての提議があり(五十嵐委員)，計算費保留分(各グループ分配の枠外のもの)の26万円と，カーボン評価作業のための30万円は研究室で使用するようになった。

14MeV Threshold Reaction の評価作業の所属については，核データ・グループ内で再度討議してもらうことになった。

なお，核データ研究室における研究テーマとして，ウランの非弾性散乱のデータの評価なども考えられるという意見もあった。核データ研究室とシグマ委の間の関係につき意見の交換が行なわれた。

#### 2 入手 Numerical Data の取り扱いについて

次回運営委までに桂木，五十嵐両委員が成案をつくり，申し込み用のフォームも添付することになった。

#### 3 44年度 計画

各グループで作成する。

#### 4 SCISRS - IIについて

CCDNより、SCISRS - IIについてのコメントを求められ、回答の締め切りが7月1日なので、とりあえず検討会（百田，中嶋，桂木，更田，西村，田中，五十嵐の7委員）をすることになったとの経過および作業の概要の説明があった。（主査）

#### 5 研究会について

財政的裏付けについては、動力炉開発のための調査費という名目で動力炉開発管理室経由で、動燃団の予算を期待できる旨、能決委員から再度確認を得ているとのことであった。（主査，桂木委員）

なお、研究会の具体策として、①内容的には勉強会の色彩、②時期としては、Proceedingsの入手が7月末になる予定なので8月末——8月29日（木）、30日（金）、31（土）をあてる。③西村，斉藤慶一両委員を世話人とする。——その後、斉藤委員でなく吉田弘幸氏（動開管理室）に変更。——

が決定された。とりあえず6月17日～22日を準備期間として、実行委員を世話人が推せんし、交渉することになった。

#### 6 リクエスト・リスト改訂版作成について

当委員会がまとめ役になって、日本リクエスト・リストという形で過去に1966年9月に作成したもの（EANJC(J)6'AL'）の改訂版を作成する必要があり、またEANDCの方からも要求されている（9月20日締切り）との経過・主旨説明があった。

今回のリスト作成に当っては、①第1版の中から、取り下げるものを洗うこと ②新規に追加すること ③前回は核の重いのと軽いのとに重点が置かれていたが、今回は、中間のものも出すこと の三点が主眼とされる。大部分は原子炉設計のためのデータの要求ということで桂木委員の方から出ることが期待されるが、その他実験の分野の人からも、測定のスランダード・データの要求が予想されるとのことである。

スケジュールとしては、リクエストの問い合わせを6月20日までに行ない7月31日～9月1日の期間を回答の検討にあて、9月10日までにとまとめるということで、検討会の構成は、五十嵐委員が世話人となって考えることになった。

#### 7 CINDAの配布先の追加について

ENEAへのわが国の出資金の比率から、日本としてCINDAをもっと請求することができるので、国内配布先を追加したいとのことで提議された。(主査)

岡本委員(CINDA世話人)作成の追加リスト(案)を参考に二、三の質疑応答があったが、疑問の点、他に追加したい箇所があるばあいは主査に連絡することで、詳細の決定は主査に一任された。

#### 8 プロGRESS・レポート作成について

更田委員(PROGRESS・レポート作成世話人)に実行面は一任してあるが、今年度はレポートのフォームもきめて、はや目に作業にとりかかるので、協力願いたいとのことである。(主査)

#### 9 その他

##### ○ 遮へい実験専門委員会からの申し入れ

過日遮へい実験専門委(原子力学会)の主査ならびに幹事から①同委と当委員会との連けいを密にしたい ②その方法として同委から当委員会へ委員を参加させることを要請することの可否について検討中であり、当委員会でも考慮されたい旨連絡があったとのことである。(主査)

#### 10. 次回運営委員会の日取り

日取りは決定しなかったが、炉定数グループの資金を動燃団からまわして貰うばあいのシグマ委員会としての基本的態度について討議してもらいたいのので、なるべくはやく開催してほしいとの要望があった。(桂木委員)

以上